

第 3 章 調査①

視覚障害あはき師に対する調査

1 - 1 書面調査 調査概要

1. 調査目的

視覚障害あはき師の業務内容、ICTスキルの有無、ICT訓練等に対するニーズ等の把握を行うために実施した。

2. 調査対象

全国の視覚障害あはき師 800名

3. 調査方法

- ・調査票の配布によるアンケート調査。
- ・全国の視覚障害当事者団体及びあはき業界団体に依頼し、会員等に対して調査票を配布した。なお、依頼先には、人口比に応じて調査票の配布数を調整した。
- ・調査票は158ページの墨字版の他に、点字版、テキスト版を配布した。調査対象者は回答しやすい方法を選択し、郵送またはメール送信で回答を提出した。

4. 調査期間

令和2年11月20日～12月18日

5. 回収率

57.5% (460名 / 800名)

6. 回答の傾向

- ・全国から人口比に応じた回答が得られた。
- ・男性からの回答が多く、回答者の性別は偏りがある。

7. 調査結果の掲載方法

- ・一部の調査結果は、調査票とは異なる順番で掲載する。また、設問名と選択肢の一部は改題を行った上で掲載している。
- ・一部の調査結果には、「第6章 考察・分析」で用いたクロス集計の結果を掲載する。

1-2 書面調査 結果

1. 回答者に関する質問

(1) 年齢

	回答数	%
① 20代	6	1.3
② 30代	10	2.2
③ 40代	48	10.4
④ 50代	101	22.0
⑤ 60代	179	38.9
⑥ 70代以上	116	25.2
⑦ 無回答	0	0.0
全体	460	100.0

(2) 性別

	回答数	%
① 男性	376	81.7
② 女性	84	18.3
③ その他	0	0.0
④ 無回答	0	0.0
全体	460	100.0

(3) 視覚障害の程度

	回答数	%
① 全盲	276	60.0
② 弱視	180	39.1
③ 盲ろう	1	0.2
④ その他	1	0.2
⑤ 無回答	2	0.5
全体	460	100.0

※②弱視 身体障害者手帳の等級の内訳

	回答数	%		回答数	%
1級	52	28.9	5級	10	5.6
2級	82	45.6	6級	3	1.7
3級	23	12.8	無回答	5	2.8
4級	5	2.8	全体	180	100.0

(4) ICT機器の利用状況

	回答数	%
①仕事とプライベートで利用している	223	48.5
②仕事で利用している	12	2.6
③プライベートで利用している	96	20.9
④それほど利用していない	29	6.3
⑤利用していない	90	19.6
⑥無回答	10	2.2
全体	460	100.0

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①仕事とプライベートで利用している	34	53.1	57	56.4
②仕事で利用している	2	3.1	0	0.0
③プライベートで利用している	20	31.3	20	19.8
④それほど利用していない	4	6.3	4	4.0
⑤利用していない	3	4.7	18	17.8
⑥無回答	1	1.6	2	2.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代~	
	回答数	%	回答数	%
①仕事とプライベートで利用している	87	48.6	45	38.8
②仕事で利用している	8	4.5	2	1.7
③プライベートで利用している	34	19.0	22	19.0
④それほど利用していない	10	5.6	11	9.4
⑤利用していない	37	20.7	32	27.6
⑥無回答	3	1.7	4	3.4
全体	179	100.0	116	100.0

※「1-(3)視覚障害の程度」とのクロス集計

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
①仕事とプライベートで利用している	131	47.5	91	50.6
②仕事で利用している	8	2.9	4	2.2
③プライベートで利用している	63	22.8	31	17.2
④それほど利用していない	14	5.1	15	8.3
⑤利用していない	57	20.7	32	17.8
⑥無回答	3	1.1	7	3.9
全体	276	100.0	180	100.0

(5) 回答方法

	回答数	%
① 郵送（墨字）	209	45.4
② 郵送（点字）	92	20.0
③ メール	159	34.6
④ 無回答	0	0.0
全体	460	100.0

※「1 - (3) 視覚障害の程度」とのクロス集計

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
① 郵送（墨字）	80	29.0	127	70.6
② 郵送（点字）	82	29.7	10	5.6
③ メール	114	41.3	43	23.9
④ 無回答	0	0.0	0	0.0
全体	276	100.0	180	100.0

2. あはき業に関する質問

(1) あはき業の関わり方 (複数回答)

	回答数	%
① 自宅等で個人事業主として開業	318	69.1
② 自身で会社組織を立ち上げて開業	9	2.0
③ あはき施術所等に勤務	59	12.8
④ 企業等にヘルスキーパーとして勤務	13	2.8
⑤ 施設等に機能訓練指導員として勤務	32	7.0
⑥ その他【※1】	56	12.2
⑦ 無回答	10	2.2
全体	460	100.0

【※1】 病院勤務、訪問マッサージ、休業中 等

(2) あはき業における療養費の取り扱い

	回答数	%
① 取り扱っている	188	40.9
② 取り扱っていない	252	54.8
③ 分からない	7	1.5
④ 無回答	13	2.8
全体	460	100.0

※「2-(1) あはき業の関わり方」とのクロス集計

	① 個人事業主		② 会社組織		③ 施術所勤務	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
① 取り扱っている	129	40.6	3	33.3	37	62.7
② 取り扱っていない	188	59.1	6	66.7	22	37.3
③ 分からない	1	0.3	0	0.0	0	0.0
④ 無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	318	100.0	9	100.0	59	100.0
	④ヘルスキーパー		⑤機能訓練		⑥その他	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
① 取り扱っている	2	15.4	8	25.0	25	44.6
② 取り扱っていない	10	76.9	20	62.5	26	46.4
③ 分からない	1	7.7	3	9.4	2	3.6
④ 無回答	0	0.0	1	3.1	3	5.4
全体	13	100.0	32	100.0	56	100.0

※「1-(4) ICT機器の利用状況」とのクロス集計

	①②③利用あり		④⑤利用なし	
	回答数	%	回答数	%
①取り扱っている	146	44.1	42	35.3
②取り扱っていない	178	53.8	73	61.3
③分からない	4	1.2	3	2.5
④無回答	3	0.9	1	0.8
全体	331	100.0	119	100.0

(3) あはき業における重要な書類の作成方法(複数回答)

	回答数	%
①パソコンで作成	150	32.6
②墨字で作成	52	11.3
③点字で作成	63	13.7
④他者に口頭で指示して作成【※1】	77	16.7
⑤作成していない	87	18.9
⑥その他【※2】	29	6.3
⑦無回答	6	1.3
全体	460	100.0

【※1】後日、墨字書類の作成を他者に依頼することも含む

【※2】家族が作成、代行先に依頼、会社が作成 等

※「1-(1) 年齢」とのクロス集計(複数回答)

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①パソコンで作成	19	29.7	38	37.6
②墨字で作成	8	12.5	14	13.9
③点字で作成	6	9.4	4	4.0
④他者に口頭で指示して作成	15	23.4	14	13.9
⑤作成していない	11	17.2	23	22.8
⑥その他	6	9.4	9	8.9
⑦無回答	0	0.0	0	0.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代	
	回答数	%	回答数	%
①パソコンで作成	65	36.3	28	24.1
②墨字で作成	19	10.6	11	9.5
③点字で作成	29	16.2	24	20.7
④他者に口頭で指示して作成	24	13.4	24	20.7
⑤作成していない	32	17.9	21	18.1
⑥その他	8	4.5	6	5.2

⑦無回答	3	1.7	3	2.6
全体	179	100.0	116	100.0

※「1-(3) 視覚障害の程度」とのクロス集計（複数回答）

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
①パソコンで作成	83	30.1	66	36.7
②墨字で作成	6	2.2	45	25.0
③点字で作成	57	20.7	6	3.3
④他者に口頭で指示して作成	55	19.9	21	11.7
⑤作成していない	58	21.0	29	16.1
⑥その他	16	5.8	12	6.7
⑦無回答	3	1.1	3	1.7
全体	276	100.0	180	100.0

※「2-(1) あはき業の関わり方」とのクロス集計（複数回答）

	①個人事業主		②会社組織		③施術所勤務	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①パソコンで作成	115	36.2	2	22.2	11	18.6
②墨字で作成	38	11.9	1	11.1	7	11.9
③点字で作成	54	17.0	2	22.2	4	6.8
④他者に口頭	49	15.4	2	22.2	19	32.2
⑤作成していない	48	15.1	0	0.0	13	22.0
⑥その他	14	4.4	0	0.0	6	10.2
⑦無回答	4	1.3	0	0.0	1	1.7
全体	318	100.0	9	100.0	59	100.0
	④ヘルスキーパー		⑤機能訓練		⑥その他	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①パソコンで作成	10	76.9	8	25.0	1	1.8
②墨字で作成	2	15.4	3	9.4	2	3.6
③点字で作成	0	0.0	3	9.4	0	0.0
④他者に口頭	0	0.0	5	15.6	3	5.4
⑤作成していない	1	7.7	9	28.1	2	3.6
⑥その他	1	7.7	1	3.1	2	3.6
⑦無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	13	100.0	32	100.0	56	100.0

(4) あはきの業務の中で、重要な書類作成に困っているか

	回答数	%
①困っている	173	37.6
②困っていない	211	45.9
③分からない	58	12.6
④無回答	18	3.9
全体	460	100.0

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①困っている	21	32.8	34	33.7
②困っていない	28	43.8	50	49.5
③分からない	10	15.6	17	16.8
④無回答	5	7.8	0	0.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代~	
	回答数	%	回答数	%
①困っている	70	39.1	48	41.4
②困っていない	82	45.8	51	44.0
③分からない	21	11.7	10	8.6
④無回答	6	3.4	7	6.0
全体	179	100.0	116	100.0

※「1-(3)視覚障害の程度」とのクロス集計

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
①困っている	119	43.1	52	28.9
②困っていない	119	43.1	90	50.0
③分からない	31	11.2	27	15.0
④無回答	7	2.5	11	6.1
全体	276	100.0	180	100.0

※「1-(4)ICT機器の利用状況」とのクロス集計

	①②③利用あり		④⑤利用なし	
	回答数	%	回答数	%
①困っている	135	40.8	35	29.4
②困っていない	150	45.3	55	46.2
③分からない	36	10.9	22	18.5
④無回答	10	3.0	7	5.9
全体	331	100.0	119	100.0

※「2－（1）あはき業の関わり方」とのクロス集計

	①個人事業主		②会社組織		③施術所勤務	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①困っている	137	43.1	3	33.3	12	20.3
②困っていない	142	44.7	6	66.7	29	49.2
③分からない	34	10.7	0	0.0	13	22.0
④無回答	5	1.6	0	0.0	5	8.5
全体	318	100.0	9	100.0	59	100.0
	④ヘルスキーパー		⑤機能訓練		⑥その他	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①困っている	3	23.1	10	31.3	4	40.0
②困っていない	10	76.9	15	46.9	5	50.0
③分からない	0	0.0	4	12.5	0	0.0
④無回答	0	0.0	3	9.4	1	10.0
全体	13	100.0	32	100.0	10	100.0

※「2－（2）あはき業における療養費の取り扱い」とのクロス集計

	①取り扱っている		①取り扱っていない	
	回答数	%	回答数	%
①困っている	89	47.3	78	31.0
②困っていない	82	43.6	123	48.8
③分からない	14	7.4	41	16.3
④無回答	3	1.6	10	4.0
全体	188	100.0	252	100.0

※「2－（3）あはき業における重要な書類の作成方法」とのクロス集計

	①パソコンで作成		②墨字で作成		③点字で作成	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①困っている	63	42.0	17	32.7	37	58.7
②困っていない	74	49.3	28	53.8	23	36.5
③分からない	10	6.7	6	11.5	3	4.8
④無回答	3	2.0	1	1.9	0	0.0
全体	150	100.0	52	100.0	63	100.0
	④他者に口頭で指示		⑤作成していない		⑥その他	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①困っている	28	36.4	16	18.4	14	48.3
②困っていない	42	54.5	35	40.2	9	31.0
③分からない	7	9.1	29	33.3	4	13.8
④無回答	0	0.0	7	8.0	2	6.9
全体	77	100.0	87	100.0	29	100.0

(5) 書類作成に困っている主な理由 (自由記述を整理)

① 記入や入力が難しい

- ・書類の字が小さくて読めない。
- ・記入欄が小さく、書き込めない。
- ・書類の記入欄が複雑で入力できない。
- ・視覚障害者に使いやすいソフトがない。
- ・画面読み上げソフトで正しく読まないものがある。
- ・押印が正しく押せたかどうか不安。
- ・患者さんの前で綺麗に記入ができない。

② 他者への依頼が難しい

- ・書類が複雑なため、他者をお願いしづらい。
- ・他者をお願いしたとしても、書類が正しく書けたかどうか確認できない。

③ その他

- ・記入を間違えると返戻されてしまう。
- ・書類自体の内容が頻繁に変更される。

(6) 書類作成に困っていない主な理由 (自由記述を整理)

① 自身で作成ができる

- ・拡大読書器やルーペを利用すれば作成できる。
- ・画面読み上げソフトで記入ができる。

② 他者への依頼で対応できる

- ・家族に書いてもらえる。
- ・勤め先の職員等に書いてもらえる。
- ・代行業者に依頼している。

③ その他

- ・書類を作ること自体を諦めたため、困っていない。

(7) 書類作成に困っている場合、自分一人で書類を作れるようになりたいか

【対象：4-(4)「①困っている」を選択した回答者 173名】

	回答数	%
①思う	156	90.2
②思わない	6	3.5
③分からない	8	4.6
④無回答	3	1.7
全体	173	100.0

「①思う」のみのクロス集計

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	回答数	全体	%
①②③20～40代	19	21	90.5
④50代	31	34	91.2
⑤60代	63	70	90.0
⑥70代	43	48	89.6

※「1-(3)視覚障害の程度」とのクロス集計

	回答数	全体	%
①全盲	108	119	90.8
②弱視	46	52	88.5

※「1-(4)ICT機器の利用状況」とのクロス集計

	回答数	全体	%
①②③利用あり	127	135	94.1
④⑤利用なし	28	35	80.0

※「2-(1)あはき業の関わり方」とのクロス集計

	回答数	全体	%
①個人事業主	127	137	92.7
②会社勤務	3	3	100.0
③施術所勤務	11	12	91.7
④ヘルスキーパー	3	3	100.0
⑤機能訓練	8	10	80.0
⑥その他	16	19	84.2

※「2-(2)あはき業における療養費の取り扱い」とのクロス集計

	回答数	全体	%
①取り扱っている	82	89	92.1
②取り扱っていない	71	78	91.0

3. ICT訓練等に関する質問

(1) ICT訓練等を受けた経験

	回答数	%
①ある	132	28.7
②ない	178	38.7
③独自にパソコン等の操作方法を覚えた	136	29.6
④無回答	14	3.0
全体	460	100.0

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	①②③ 20～40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①ある	20	31.3	32	31.7
②ない	24	37.5	33	32.7
③独自	16	25.0	33	32.7
④無回答	4	6.3	3	3.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代～	
	回答数	%	回答数	%
①ある	52	29.1	28	24.1
②ない	70	39.1	51	44.0
③独自	54	30.2	33	28.4
④無回答	3	1.7	4	3.4
全体	179	100.0	116	100.0

※「1-(3)視覚障害の程度」とのクロス集計

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
①ある	91	33.0	41	22.8
②ない	83	30.1	93	51.7
③独自	94	34.1	40	22.2
④無回答	8	2.9	6	3.3
全体	276	100.0	180	100.0

4. ICT訓練等を「受けたことがある」回答者への質問

【対象：3-(1)「①ある」を選択した回答者 132名】

(1) ICT訓練等を受けた時期

	回答数	%
①あはき業に就労前	48	36.4
②あはき業に就労後	82	62.1
③無回答	2	1.5
全体	132	100.0

(2) ICT訓練等を受けた場所（複数回答）

	回答数	%
①あはきの養成機関	14	10.6
②視覚障害者向け訓練を行う施設	39	29.5
③就労支援を行う施設	10	7.6
④地域の視覚障害者団体や情報提供施設	56	42.4
⑤パソコンサポート団体	49	37.1
⑥その他【※1】	17	12.9
⑦無回答	1	0.8
全体	132	100.0

【※1】歩行訓練士、機器の購入先 等

※「4-(1) ICT訓練等を受けた時期」とのクロス集計（複数回答）

	①就労前		②就労後	
	回答数	%	回答数	%
①あはきの養成機関	12	25.0	2	2.4
②視覚障害者向け訓練を行う施設	19	39.6	20	24.4
③就労支援を行う施設	5	10.4	5	6.1
④地域の視覚障害者団体等	17	35.4	38	46.3
⑤パソコンサポート団体	11	22.9	37	45.1
⑥その他	9	18.8	8	9.8
⑦無回答	1	2.1	0	0.0
全体	48	100.0	82	100.0

(3) 訓練機関等への繋がり方 (複数回答)

	回答数	%
①先生や講師等からの紹介	30	22.7
②勤め先からの指示	1	0.8
③病院からの紹介	5	3.8
④役所からの紹介	10	7.6
⑤知人からの紹介	75	56.8
⑥自分から探した	37	28.0
⑦その他【※1】	12	9.1
⑧無回答	1	0.8
全体	132	100.0

【※1】視覚障害当事者団体、市町村の広報 等

(4) ICT訓練等が重要な書類作成に役立っているか

	回答数	%
①役立った	59	44.7
②役立っていない	43	32.6
③分からない	27	20.5
④無回答	3	2.3
全体	132	100.0

※「4-(1) ICT訓練等を受けた時期」とのクロス集計

	①就労前		②就労後	
	回答数	%	回答数	%
①役立った	23	47.9	36	42.9
②役立っていない	16	33.3	27	32.1
③分からない	9	18.8	18	21.4
④無回答	0	0.0	3	3.6
全体	48	100.0	84	100.0

(5) ICT 訓練等を受けて良かった点 (複数回答)

	回答数	%
①パソコン等の操作が一人で出来るようになった	100	75.8
②仕事でパソコン等のICT機器を生かせるようになった	51	38.6
③様々な情報を得られるようになった	87	65.9
④周りとのコミュニケーションに役立った	77	58.3
⑤特になし	12	9.1
⑥その他【※1】	4	3.0
⑦無回答	4	3.0
全体	132	100.0

【※1】特定の操作が覚えられた 等

(6) ICT 訓練等を受けて不満だった点 (複数回答)

	回答数	%
①近くでICT訓練等を受けることができなかった	39	29.5
②仕事の合間等、自分の希望する時間に訓練が受けられなかった	27	20.5
③求めていた訓練内容を受けることができなかった	17	12.9
④手続きに時間と手間がかかった	6	4.5
⑤お金の負担が大きかった (訓練費、機器の購入等)	23	17.4
⑥特になし	54	40.9
⑦その他【※1】	3	2.3
⑧無回答	7	5.3
全体	132	100.0

【※1】就職に繋がらなかった、就職後は教えてくれない、待ち時間が長い 等

5. ICT訓練等を「受けたことがない」回答者への質問

【対象：3-(1)「②ない」を選択した回答者 178名】

(1) ICT訓練等を受けていない理由（複数回答）

	回答数	%
① ICT訓練等を知らなかった	60	33.7
② 必要性を感じていない	74	41.6
③ 時間や費用がない	41	23.0
④ 周りに施設等がない	43	24.2
⑤ その他【※1】	20	11.2
⑥ 無回答	9	5.1
全体	178	100.0

【※1】 家族や支援者がいる、高齢で難しい 等

※「1-(1)年齢」とのクロス集計（複数回答）

	①②③ 20～40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
① ICT訓練等を知らなかった	11	45.8	15	45.5
② 必要性を感じていない	11	45.8	10	30.3
③ 時間や費用がない	6	25.0	8	24.2
④ 周りに施設等がない	5	20.8	9	27.3
⑤ その他	0	0.0	3	9.1
⑥ 無回答	0	0.0	0	0.0
全体	24	100.0	33	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代～	
	回答数	%	回答数	%
① ICT訓練等を知らなかった	24	34.3	10	19.6
② 必要性を感じていない	25	35.7	28	54.9
③ 時間や費用がない	19	27.1	5	9.8
④ 周りに施設等がない	19	27.1	9	17.6
⑤ その他	10	14.3	6	11.8
⑥ 無回答	2	2.9	7	13.7
全体	70	100.0	51	100.0

※「1-(3) 視覚障害の程度」とのクロス集計（複数回答）

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
① I C T 訓練等を知らなかった	25	30.1	34	36.6
② 必要性を感じていない	40	48.2	34	36.6
③ 時間や費用がない	22	26.5	19	20.4
④ 周りに施設等がない	20	24.1	21	22.6
⑤ その他	11	13.3	9	9.7
⑥ 無回答	1	1.2	8	8.6
全体	83	100.0	93	100.0

(2) あはきの業務に役立つのであれば、I C T 訓練等を受けたいと思うか

	回答数	%
① 思う	90	50.6
② 思わない	45	25.3
③ 分からない	35	19.7
④ 無回答	8	4.5
全体	178	100.0

※「1-(1) 年齢」とのクロス集計

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
① 思う	17	70.8	24	72.7
② 思わない	3	12.5	4	12.1
③ 分からない	4	16.7	5	15.2
④ 無回答	0	0.0	0	0.0
全体	24	100.0	33	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代~	
	回答数	%	回答数	%
① 思う	33	47.1	16	31.4
② 思わない	18	25.7	20	39.2
③ 分からない	17	24.3	9	17.6
④ 無回答	2	2.9	6	11.8
全体	70	100.0	51	100.0

6. 「独自にパソコン等の操作方法を覚えた」回答者への質問

【対象：3-(1)「③独自にパソコン等の操作方法を覚えた」を選択した回答者 136名】

(1) 操作方法的覚え方（複数回答）

	回答数	%
①説明書等を読んで独学で勉強した	81	59.6
②家族に教えてもらった	34	25.0
③友人に教えてもらった	103	75.7
④メーリングリストで尋ねた	39	28.7
⑤電話等でメーカーに問い合わせた	37	27.2
⑥ホームページを検索して調べた	61	44.9
⑦その他【※1】	16	11.8
⑧無回答	1	0.7
全体	136	100.0

【※1】視覚障害者になる前に習得した、パソコンサークルに加入して覚えた 等

※「1-(1)年齢」とのクロス集計（複数回答）

	①②③ 20～40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①説明書等を読んで独学で勉強した	9	56.3	22	66.7
②家族に教えてもらった	3	18.8	9	27.3
③友人に教えてもらった	12	75.0	26	78.8
④メーリングリストで尋ねた	6	37.5	10	30.3
⑤電話等でメーカーに問い合わせた	4	25.0	6	18.2
⑥ホームページを検索して調べた	11	68.8	21	63.6
⑦その他	2	12.5	3	9.1
⑧無回答	0	0.0	0	0.0
全体	16	100.0	33	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代～	
	回答数	%	回答数	%
①説明書等を読んで独学で勉強した	33	61.1	17	51.5
②家族に教えてもらった	13	24.1	9	27.3
③友人に教えてもらった	40	74.1	25	75.8
④メーリングリストで尋ねた	14	25.9	9	27.3
⑤電話等でメーカーに問い合わせた	20	37.0	7	21.2
⑥ホームページを検索して調べた	21	38.9	8	24.2
⑦その他	5	9.3	6	18.2
⑧無回答	1	1.9	0	0.0
全体	54	100.0	33	100.0

※「1-(3) 視覚障害の程度」とのクロス集計（複数回答）

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
①説明書等を読んで独学で勉強した	51	54.3	29	72.5
②家族に教えてもらった	21	22.3	11	27.5
③友人に教えてもらった	72	76.6	29	72.5
④メーリングリストで尋ねた	35	37.2	4	10.0
⑤電話等でメーカーに問い合わせた	29	30.9	7	17.5
⑥ホームページを検索して調べた	40	42.6	20	50.0
⑦その他	11	11.7	4	10.0
⑧無回答	0	0.0	1	2.5
全体	94	100.0	40	100.0

(2) 操作方法を覚えた理由（複数回答）

	回答数	%
①生活において必要になったから	100	73.5
②仕事において必要になったから	83	61.0
③近くで教えてくれる所がなかったから	24	17.6
④友人や同僚等から勧められたから	44	32.4
⑤その他【※1】	23	16.9
⑥無回答	3	2.2
全体	136	100.0

【※1】趣味として学んだ 等

(3) 操作方法を覚えてよかった点（複数回答）

	回答数	%
①操作が一人で出来るようになった	118	86.8
②仕事で生かせるようになった	91	66.9
③様々な情報を得られるようになった	126	92.6
④コミュニケーションに役立った	109	80.1
⑤特になし	1	0.7
⑥その他【※1】	7	5.1
⑦無回答	1	0.7
全体	136	100.0

【※1】他の人に教えられるようになった 等

7. あはきに特化したICT訓練等に関する質問

(1) あはきの書類作成に特化したICT訓練等を受講したいと思うか

	回答数	%
①思う	232	50.4
②思わない	107	23.3
③分からない	112	24.3
④無回答	9	2.0
全体	460	100.0

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①思う	44	68.8	56	55.4
②思わない	7	10.9	14	13.9
③分からない	13	20.3	29	28.7
④無回答	0	0.0	2	2.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代~	
	回答数	%	回答数	%
①思う	91	50.8	41	35.3
②思わない	40	22.3	46	39.7
③分からない	43	24.0	27	23.3
④無回答	5	2.8	2	1.7
全体	179	100.0	116	100.0

※「1-(3)視覚障害の程度」とのクロス集計

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
①思う	140	50.7	90	50.0
②思わない	70	25.4	36	20.0
③分からない	66	23.9	45	25.0
④無回答	0	0.0	9	5.0
全体	276	100.0	180	100.0

(2) あはきの書類作成に困った時に、電話やメール等で問い合わせ先があれば利用したいと思うか

	回答数	%
①思う	314	68.3
②思わない	64	13.9
③分からない	73	15.9
④無回答	9	2.0
全体	460	100.0

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①思う	55	85.9	77	76.2
②思わない	3	4.7	7	6.9
③分からない	6	9.4	16	15.8
④無回答	0	0.0	1	1.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代~	
	回答数	%	回答数	%
①思う	121	67.6	61	52.6
②思わない	23	12.8	31	26.7
③分からない	30	16.8	21	18.1
④無回答	5	2.8	3	2.6
全体	179	100.0	116	100.0

※「1-(3)視覚障害の程度」とのクロス集計

	①全盲		②弱視	
	回答数	%	回答数	%
①思う	184	66.7	127	70.6
②思わない	40	14.5	23	12.8
③分からない	52	18.8	21	11.7
④無回答	0	0.0	9	5.0
全体	276	100.0	180	100.0

(3) ICT訓練等を受けやすくするために必要だと思う内容
「場所や移動方法」(複数回答)

	回答数	%
①近所での訓練を実施する	276	60.0
②訓練する場所を増やす	181	39.3
③訓練場所への移動手段を確保する	206	44.8
④オンライン等の遠隔訓練の活用	213	46.3
⑤分からない	68	14.8
⑥その他【※1】	17	3.7
⑦無回答	14	3.0
全体	460	100.0

【※1】自宅や職場への出張 等

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①近所での訓練を実施する	42	65.6	62	61.4
②訓練する場所を増やす	27	42.2	45	44.6
③訓練場所への移動手段を確保する	33	51.6	46	45.5
④オンライン等の遠隔訓練の活用	44	68.8	54	53.5
⑤分からない	4	6.3	9	8.9
⑥その他	1	1.6	5	5.0
⑦無回答	1	1.6	1	1.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代~	
	回答数	%	回答数	%
①近所での訓練を実施する	113	63.1	59	50.9
②訓練する場所を増やす	73	40.8	36	31.0
③訓練場所への移動手段を確保する	86	48.0	41	35.3
④オンライン等の遠隔訓練の活用	75	41.9	40	34.5
⑤分からない	26	14.5	29	25.0
⑥その他	7	3.9	4	3.4
⑦無回答	6	3.4	6	5.2
全体	179	100.0	116	100.0

(4) ICT訓練等を受けやすくするために必要だと思う内容
「受講方法」(複数回答)

	回答数	%
①希望する時間や日時で実施する	286	62.2
②理解するまで、何度も実施する	295	64.1
③申し込みを簡単にする	210	45.7
④訓練費の費用補助を行う	226	49.1
⑤機器の導入費の費用補助を行う	224	48.7
⑥分からない	61	13.3
⑦その他【※1】	9	2.0
⑧無回答	17	3.7
全体	460	100.0

【※1】対象者要件の緩和、動画の配信 等

※「1-(1)年齢」とのクロス集計

	①②③ 20~40代		④ 50代	
	回答数	%	回答数	%
①希望する時間や日時で実施する	49	76.6	71	70.3
②理解するまで、何度も実施する	46	71.9	63	62.4
③申し込みを簡単にする	41	64.1	51	50.5
④訓練費の費用補助を行う	37	57.8	56	55.4
⑤機器の導入費の費用補助を行う	32	50.0	60	59.4
⑥分からない	4	6.3	6	5.9
⑦その他	1	1.6	2	2.0
⑧無回答	2	3.1	2	2.0
全体	64	100.0	101	100.0
	⑤ 60代		⑥ 70代~	
	回答数	%	回答数	%
①希望する時間や日時で実施する	110	61.5	56	48.3
②理解するまで、何度も実施する	120	67.0	66	56.9
③申し込みを簡単にする	84	46.9	34	29.3
④訓練費の費用補助を行う	97	54.2	36	31.0
⑤機器の導入費の費用補助を行う	94	52.5	38	32.8
⑥分からない	18	10.1	33	28.4
⑦その他	5	2.8	1	0.9
⑧無回答	8	4.5	5	4.3
全体	179	100.0	116	100.0

8. アンケートに寄せられた主な意見（自由記述を整理）

（1）年齢や障害度合いに関する意見

① 高齢者

- ・ 10年前にこのアンケートを実施してほしかった。今の私は歳を取りすぎてしまい、ICTにはついて行けない。
- ・ 高齢となり仕事も少なく、あと数年で廃業の予定です。今さらICTを勉強して保険治療を行うつもりはありません。

② 全盲

- ・ 全盲の者が健常者と同等に書類処理ができるように、点字での書類作成を認めてほしい。また、行政からアシスタントの派遣の補助を認めてほしい。
- ・ 全盲でも使いやすいソフトを作してほしい。また、実際に使うソフトで指導してほしい。

③ 弱視

- ・ 今現在は視力があり、何とかパソコン等が使えているが、視力がなくなった時のことを考えると、仕事の事務処理ができるのかが心配。
- ・ 様々な書類を見ていると、文字の大きさであったり、色であったり、見づらいものが多い。健常者の業者とのバランスでこういう書類になったのかもしれないが、業界全体で視覚障害者の業者がいることを理解すべきだと思う。

（2）あはき業に関する意見

① 業務で使用する書類

- ・ 様々な書類の書式が複雑で、視覚障害者には取り扱いにくい。公の書類の申請はやはり最終的に晴眼者の力を借りることになるのを痛感している。
- ・ 文字を入力しやすいように書体、フォント、コントラスト等に配慮したものを作してほしい。

② 療養費

- ・ 療養費の取り扱いは視覚障害者にとってはほとんど不可能に近いと思う。同意書等の作成は視力が必要。自由診療しかできない。
- ・ 保険請求の書類作成に行き詰まった時は、何らかの方法で助けてもらえないか。

③ 業務上の支援

- ・ 業務上、視力を必要とすることが多いので、晴眼者のアシスタントが必要だと思う。

- ・自分が作った書類を確認してくれる人や機関を作ってもらいたい。誤字や枠内に文字が正しく入っているか分からないし、印刷した時に罫線が正しいのかどうか不安。

(3) ICT 訓練等に関する意見

① 訓練全般

- ・ICT 訓練を受けるチャンスがほしい。
- ・訓練で発生した費用は補助してほしい。
- ・晴眼のお客様へのコミュニケーション講座等があれば実施してほしい。
- ・ICTは大嫌いなので、訓練を受けたいと思わない。

② 支援やサポート

- ・パソコン等で操作方法に行き詰まったとき、何らかの方法で助けてもらえないか。
- ・長きに渡り、県内のパソコンボランティアに相談して、助けてもらっている。ただ、自分が住んでいる所でお願いできたらよいと思っている。

③ あはき師の養成での訓練や支援

- ・盲学校（視覚特別支援学校）やあはき師養成の専門校での教育段階で、こういったICTに関するカリキュラムに含めることが必要ではないか。

(4) ICT 全般に関する意見

① ファイル形式

- ・国や自治体から届く書類はPDFファイルが多く、読めなくて苦勞している。WordファイルかTXTファイルにしてもらえれば、パソコンで読めるようになるので助かる。

② あはき業に関する書類作成ソフト

- ・視覚障害者が申請書に記入ができるよう、分かりやすいアプリケーションを開発してほしい。
- ・申請用ソフトを開発する時には、Excelのような表記入ではなく、項目ごとに箇条書きで記入ができるようにしてほしい。

2-1 ヒアリング調査 調査概要

1. 調査目的

書面調査の調査結果の一部が不明確な調査対象に対して、その詳細等を確認するため、ヒアリング調査を実施した。

2. 調査対象

- (1) 個人開業の視覚障害あはき師
- (2) ヘルスキーパーの視覚障害あはき師

3. 調査方法

- ・調査員からの口頭でのヒアリング。

4. 調査日、実施方法

- (1) 個人開業の視覚障害あはき師
日 時 令和3年2月18日
実施方法 会議室において対面方式で実施
- (2) ヘルスキーパーの視覚障害あはき師
日 時 令和3年3月13日
実施方法 オンライン上で実施

5. 調査結果の掲載方法

対象者への調査を実施する理由を整理した上で、ヒアリング内容と回答を整理し、項目ごとに掲載する。

2-2 ヒアリング調査（個人開業） 結果

1. 調査の実施理由

全国の視覚障害あはき師を対象にした書面調査では、多くの回答が寄せられ、様々な調査結果が得られた。

調査結果を整理すると、個人事業主として自宅等であはきの施術所を開業する者からの回答数が多く、全体の約7割を占めていた。様々なあはきの業態がある中で、このような個人開業の者からの回答が多かったことは、それだけ個人開業の者にとって、今回の書面調査の主眼点の一つである「書類作成」に困難さがあることを裏付けるものであった。

しかし、書面調査を行った結果、個人開業の視覚障害あはき師からの回答には、どのような背景があるのかまでは分からなかった。例えば、ICTスキルの獲得方法、あはき業でのICTスキルの活用方法等は確認できなかった。また、調査結果のクロス集計を行うと、全盲と弱視、年齢、ICTスキルの差といった回答者の個人特性の違いにより、調査結果に差異が発生していた。

そのため、これらを明らかにするために、個人特性が違う個人開業の視覚障害あはき師2名に対して、ヒアリング調査を行った。

2. 調査対象者

(1) A氏

基本情報：東京都在住、全盲、50代

あはき業の関わり方：自宅に施術所を開設、訪問診療あり、療養費の取り扱いあり

ICTスキル：中級レベル（Excelの操作可能）

(2) B氏

基本情報：東京都在住、手動弁（中途障害）、70代

あはき業の関わり方：自宅に施術所を開設、訪問診療あり、療養費の取り扱いあり

ICTスキル：初級～中級レベル（Excelの操作可能）

3. ヒアリング内容と回答

(1) ICTスキルの獲得方法

	A氏	B氏
①パソコン操作の習得方法	<ul style="list-style-type: none">・最初は独学で覚えた。・その後、当事者団体のパソコン教室に通い、マンツーマンの訓練を10回程度受けた。ここで詳しい内容を覚えることができた。	<ul style="list-style-type: none">・まず、地元のパソコンボランティアにお願いし、土日を中心に操作方法の基礎を教えてもらった。・その後、就労系の専門施設に通い、詳しい内容を教わった。
②習得方法の評価	<ul style="list-style-type: none">・パソコン教室では、教えてもらいたい内容を相談し、その内容を的確に教えてもらった。・仕事の合間に通えたのが特に助かった。	<ul style="list-style-type: none">・60代で習い始めたので、習得まで時間がかかったが、ある程度は満足している。教えてくださった皆さんに感謝している。

(2) ICT関連での困り事

	A氏	B氏
①困っている内容	<ul style="list-style-type: none">・最近では、オンライン上で申し込みをする時の画像認証に困っている。	<ul style="list-style-type: none">・困ることが多く、操作ができないことは諦めている。
②困っている内容の解決方法	<ul style="list-style-type: none">・家族がいる時は、画面を見てもらい、助けてもらっている。・利用しているインターネット・プロバイダーの有料の電話サポートがあり、これを活用している。遠隔でパソコンの設定を変えてもらうことがあり、非常に助かっている。	<ul style="list-style-type: none">・知り合いにICT関連に詳しい人がいて、よく相談している。すぐには対応できないこともあるが、そこまで気にならない。

(3) あはきの業務内容

	A氏	B氏
①記録の作成方法	<ul style="list-style-type: none"> ・メモ帳やExcelを使い、自己流でカルテ・売り上げ・予約等を記録し、管理している。 ・これらはベタ打ちレベルだが、自分では分かるので困ることはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelで売り上げを管理している。ベタ打ちレベルだが、シートを使い分けて、上手く工夫している。 ・専用ソフトを使ったことがあるが、使いづらかった。
②業務上で困っている内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務レベルのことは、一人で何とか対応している。 ・業務でパソコンを利用する中で、凄く困ることは少ないと思う。 ・紙でやりとりする書類は困ることが多く、領収証の発行と捺印には困っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務は何とか一人で対応できている。 ・出張先でお客さんに領収証を渡す場合、その場では書けないので、お客さんに了解頂いた上で、次の施術の際に渡すことがある。

(4) 療養費

	A氏	B氏
①療養費を取り扱う理由	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な予約が入り、売り上げが確保しやすい。 ・療養費を扱っていると、ある意味で国からお墨付きをもらっていることになり、無資格者対策にもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体のマッサージ券を利用する高齢者は、保険があることで依頼をしてくれるケースが多く、それで療養費に対応している。
②申請書等の作成方法	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する当事者団体に入力代行を依頼し、書類を作成してもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入力代行に依頼しており、これには助かっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・メールで必要な情報をベタ打ちして送信するだけなので、そこまで手間ではない。 ・代行を依頼するのであれば、最低でもメールが使えないと厳しいかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な療養費の書類を、自分の力で作れるとは思えないので、確実な書類が作れるのであれば、手数料を払うことはそこまで負担ではないと考えている。
--	---	--

(5) 業務におけるICT利用

	A氏	B氏
①パソコンを利用した書類作成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で療養費の申請書類等が作れるのであれば、その分は収入になるので、魅力と言えは魅力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で書類が作れたら良いこともあるだろう。ただ、療養費の書類は、誤りがあると戻ってきてしまうので、確実な書類が作れるかどうか不安。
②情報収集や情報発信での活用	<ul style="list-style-type: none"> ・PDFファイル等は読めないものが多いので、読めるようになる嬉しい。 ・宣伝は、どこまで効果があるかが分からない。以前、ホームページを開設していたが、あまり効果がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して様々な情報が得られるのは良いと思う。 ・宣伝等の情報発信までになると、今の仕事で手一杯なので、そこまで手が回らないのが現状。
③新たなシステムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードを健康保険証として利用できることは、興味がある。お客さんから提出された保険証は読めないのので、データで読み取ることができたら助かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんと同じく、マイナンバーカードの健康保険証としての利用は興味がある。自分が使っているExcelに転記できると嬉しい。

<p>④視覚障害あはき師が利用しやすい入力ソフト 【※1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelであれば、縦移動だけで入力できる方法だと分かりやすい。 ・ただ、入力はできても、本当に申請に耐える書面になっているかは、自分では分からない。この点が心配です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦移動の入力は分かりやすい。試作版のExcelは、初めて使用しても理解できた。説明と入力欄が交互になっているのが分かりやすい。
---------------------------------------	--	--

【※1】162ページに掲載したExcel版「療養費支給申請書（入力補助シート付）」を用いて、両氏にパソコンでの書類作成のデモテストを実施した。上記の回答は、デモテスト終了後に求めた感想になる。

4. まとめ

(1) 個人特性の違い

- ・年齢の違いにより、あはき業に関する考え方、ICTスキルに対する考え方や習熟度は多少の差があった。そのため、若年層と比べると高齢層は、ICTスキルの獲得に前向きになれない傾向があることが読み取れた。
- ・障害の程度（全盲と弱視）の差は、それぞれで困り事の内容が異なるものの、同レベルで困っていることが分かった。
- ・ICTスキルが高いほど、あはき業で可能となる業務の幅は広がる可能性はある。しかし、作成した書類の確認等のように、ICTスキルがあっても越えられない作業もある。

(2) ICTと視覚障害あはき師

- ・視覚障害あはき師は、まず、パソコン等を利用するためのスタートラインに立つことが大切で、このレベルまで学べる環境が必要になっている。
- ・ある程度のICTスキルを身に付けた後は、自身の創意工夫や周りからの支援を受けることで、あはき業の業務に役立てることができる。
- ・その者が持つICTスキルで対応できないことは、外部的な支援が必要となり、電話やオンラインも活用できる。
- ・ICTスキルを持つことで、新たなシステムが利用でき、視覚障害あはき師の仕事の幅は広がる可能性がある。

2-3 ヒアリング調査（ヘルスキーパー） 結果

1. 調査の実施理由

検討委員会の議論の中で、視覚障害あはき師の養成に携わる委員より、「近年は、あはきの国家資格の取得後、個人開業を目指す者よりも企業等に雇用される形態を求める者が多い」との指摘があった。そのため、本調査では、企業等に勤める視覚障害あはき師の実態を整理することも念頭に置いている。

しかし、全国の視覚障害あはき師を対象にした書面調査では、個人開業の視覚障害あはき師から多くの回答が集まった一方で、企業等に勤める視覚障害あはき師からの回答は少数となっていた。特に、近年、視覚障害あはき師の就労先として注目されているヘルスキーパー【※1】は、書面調査の回答率が2.8%（13名）であったことから、調査結果には不明確な部分が多かった。例えば、これらの者は療養費の申請書類を作成することは少ないが、勤務をする上でICTスキルを活用することは必要だと思われる。しかし、これらの者に、ICTに関するどのようなニーズがあるかは、書面調査では確認できなかった。

また、新型コロナウイルスの影響はヘルスキーパーにも及んでおり、書面調査の自由記述では、出勤ができない等の悩みが寄せられていた。一方で、個人開業の視覚障害あはき師からも、新型コロナウイルスの影響による売り上げ減少が厳しい旨の意見があり、あはき業の維持のためにICTスキルの獲得を考える者もいた。新型コロナウイルスの影響は、確実に視覚障害あはき師の生活を脅かしている。しかし、書面調査では、新型コロナウイルスの影響についての設問を設けていないため、新型コロナウイルスの影響は整理できていない。

そのため、個人開業の視覚障害あはき師とは異なるニーズ、さらには新型コロナウイルスの影響を確認するため、視覚障害のヘルスキーパーに対してヒアリングを行った。

【※1】ヘルスキーパー（企業内理療師）

産業・労働衛生分野に理療の技術を活用するもので、理療の国家資格を持つものが、企業等に雇用されその従業員等を対象にして施術等を行う者の呼称になる。理療の施術やセルフケア指導、健康への助言を通じて業務中に生じた疲労やその他の症状を取り除き、業務の能率向上と従業員の健康増進に役立てる事を目的としている。

出典：日本視覚障害ヘルスキーパー協会 <https://healthkeeper-jp.com/about>

2. 調査対象者

(1) C氏

基本情報：神奈川県在住、弱視、40代

あはき業の関わり方：企業に勤めるヘルスキーパー

ICTスキル：上級レベル（パソコン関連の講師が可能）

3. ヒアリング内容と回答

(1) ヘルスキーパーの就労状況

	C氏
①基本情報	<ul style="list-style-type: none">・全国では、約400人がヘルスキーパーとして働いていると言われている。・ヘルスキーパーとして働く人は30代～40代が中心となっている。中途の人や40代より上の人も働いている。・大都市圏を中心にヘルスキーパーを雇用する企業が増えていて、全国で200社程度が採用していると思われる。・採用する企業はIT系の会社が多い。働いている人の多くがパソコン作業をしており、その疲労を癒すことが目的となっている。
②あはきの施術方法	<ul style="list-style-type: none">・企業内の一室に施術所を設け、その企業の社員に対して施術を行っている。・あはきの中ではあん摩マッサージ指圧が中心で、はりときゅうは必要に応じて実施している。・福利厚生の一環であるため、その企業の社員は安価な値段で治療を受けることができる。費用は企業によって異なるが、1回500円ぐらいの所が多い。施術を受けた人は、みんな喜んでいいる。

(2) ヘルスキーパーの業務内容

	C氏
①業務体制	<ul style="list-style-type: none">・基本的にはあはきに関する業務が中心で、稀に他の業務と兼任している場合がある。事務の手伝いをしたり、社内報で健康関連の記事を書いたりする実例がある。・勤める企業の雇用条件で勤務しており、イメージは9時～5時の仕事になる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その企業によって人数は異なるが、一つの施術所には2名以上のヘルスキーパーが働いている。多い所では5名の所もある。 ・晴眼等の支援者が入ることはあまりなく、自分でできることは自分で対応している。
②パソコン等の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテ、予約管理、日報、売り上げ等はパソコンで入力して作成している。弱視の人だと手書きの人もある。 ・今の多くの企業は、パソコンは一人一台支給されることが大前提になっている。そして、社内連絡は、メールや社内システムを介して届けられる。そのためヘルスキーパーの仕事をする以上に、その企業で働くためにはパソコンを操作できることが必須となっている。
③パソコン操作の習得方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ最近の人は、盲学校（視覚特別支援学校）の授業で習う、または独学で覚える人が多い。

（3）ICT関連の困り事

	C氏
①社内システム	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、社内システムをベースにパソコン業務を行う企業が多く、それらが音声対応していないことに困っている。例えば、社内での連絡であれば、今まではメールが主だったが、社内システムの中のチャットで連絡が来ることがある。このチャットを画面読み上げソフトでは読み上げてくれないことがある。 ・ヘルスキーパーが扱っている情報を考えると、実は社員の健康という個人情報も扱っていることになる。そのため、情報管理のセキュリティレベルは高く、社内システムの中で管理することも多い。 ・社内システムについては、社内の担当者等に改善の要望を出すこともあるが、あまり対応してくれない。そのため、他社に勤めるヘルスキーパーの仲間同士で情報交換を行い、改善策の共有を図ることもある。

(4) ICT訓練等の必要性

	C氏
①在職者訓練	<ul style="list-style-type: none">・社内システム等の新しいシステムが出てきているので、それらを覚えるためのICT関連の訓練や支援があると助かる。・企業に勤めている視覚障害者にとって、その訓練場所まで移動するのは大変だ。また、通っている間は施術所を閉じる必要があり、なかなか通うのは難しい。・勤め先が研修として訓練を行ってくれるのであれば、安心して訓練が受けられる。・自分の仕事の状況や空き時間に合わせて、オンラインで研修が受けられたら良いと思う。

(5) 新型コロナウイルスの影響

	C氏
①勤務状況	<ul style="list-style-type: none">・テレワークの推進をしている企業では、連動して出社する人が減るので、社内に人がいない状況になっている。そのため、施術所の廃止や一時停止、施術する患者数を制限している所がある。・この問題は、ヘルスキーパー業界全体に強く影響している。しかし、このようなコロナ対応は、社会全体で行うべきことでもあるので、ある意味で仕方がないことだとも理解している。・このような状況が続くと、今後自分の仕事がどうなるか、不安になってしまう。雇用が継続されるのか、この会社で仕事ができるのか、人によって不安は色々あると思うが、多くの視覚障害のヘルスキーパーは不安になっていると思う。
②配置転換、転職等	<ul style="list-style-type: none">・上記の勤務状況が影響し、配置転換になった人もいる。弱視の人が事務職に移ったという事例を聞いたことがある。・企業側も障害者雇用率の維持があるので、視覚障害のヘルスキーパーがその会社で働けるように、様々な工夫をしている所もある。テレワークになったのであれば、あはき以外の仕

	<p>事ができるように、オンラインでの健康相談を業務にした所もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害のヘルスキーパーの場合、あはき以外の仕事を担当したとしても、その仕事ができない場合もある。そのため、新たな仕事ができず、退職してしまった人もいる。 ・ 退職しても別の企業にヘルスキーパーとして転職できる保証はない。そのため、悩みながらその企業に残る者もいると思う。
③その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルスキーパーという業態の転換点に立っているのかもしれない。自分達自身も、色々と考えて、ヘルスキーパーの価値を見出し、今まで導入がなかった企業への提案等を行うことが必要かもしれない。

4. まとめ

(1) 企業で働く視覚障害あはき師（ヘルスキーパー）の実態とニーズ

- ・ 個人開業の視覚障害あはき師とは異なる書類作成や事務処理の困り事がある。
- ・ 個人開業の視覚障害あはき師以上にICTスキルは必要とされ、就労する上で必須の技術となっている。
- ・ 企業に勤めるが故に、最新のシステム等と対峙する必要があり、ICTに関する訓練や支援が必要となっている。
- ・ ICTスキルを身に付けるための研修等に対して、前向きな企業は少ない。また、移動等の制約があることから、通所型の訓練や支援は不向きとなっている。
- ・ 基礎的なICTスキルは有している者が多いことから、オンライン等を利用した訓練や支援のニーズが高い。

(2) 新型コロナウイルスの影響

- ・ 視覚障害のヘルスキーパーにとっては、テレワーク等の推進により、その業態の根幹を揺るがすほどの影響が出ており、ヘルスキーパーとしての業務ができない者もいる。
- ・ ICTスキルを獲得することで、その企業内において、あはきに関連する仕事の幅を広げられる可能性はある。